

会報



第 42 号
平成 26 年 3 月
発行
彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会

お裁縫の達人 H さん（85 歳・女性）が、私が会長を務める障害者施設の NPO 法人にミシンが出来る方という事で、来て頂くようになってから 8 年、専業主婦歴 55 年という事で最初はかなり遠慮がちであったが、手始めに販売用の袋物作りや、ズボンやスカートのウエストのサイズ直し、それにズボンの裾上げ等という比較的「まちの便利屋さん」的なお仕事から腕をならし、最近では椅子のカバー、クッション、布団カバー、洋服作りなどオーダーの注文に合わせ大変手間のかかる「プロの職人技」の仕事をする程になり、今では当 NPO 法人の稼ぎ頭である。

高齢者の社会活動への参加のポイントはなんとといっても「きつかけ」だと思ふ。実際 H さんもうちに来る時に『私なんて何の取り柄もない主婦ですから駄目ですよ』と一言で断



プロフィール

河西 伸子さん（看護師）
医療法人社団誠信会 専務理事
さいたま市浦和区針ヶ谷

◇誠信会◇
かさい医院（ご主人がドクター）
理念「医療と生活をつなぐ」地域の医療・保険・福祉の充実とネットワークづくりの推進に努める。介護保険事業所を開設

◇事業内容◇
かさい医院訪問リハビリステーション、訪問入浴かさい等。

「医療と生活をつなぐ」を实践

医療法人社団誠信会 河西 伸子

られ、その後『では、お家でミシンがけをやって頂ければそれでも結構です。是非』とお願いして無理矢理お手伝い頂いたのだが、今ではうちの施設に週 2 回通いながらミシンがけをしている。

政府の実施した調査では、社会に貢献したいと考える高齢者は多いが、実際の行動に移している方は 3 分の 1 にも満たない。参加の有無を尋ねたところ「参加している」と回答した人の割合は 30% 弱にとどまった。社会参加を考えるきっかけはやはり仕事からの引退時の前後に人生の再設計を考えて、生活、地域を中心に、自分で蓄積してきた知識や経験をボ

- ※年齢は重ねたが気持ちは若い！
- ※身体は鈍くなったが知恵はある！
- ※今からでも遅くない「始める」「創める」
- ※この年になって初めてわかる「楽しみ」「愉しみ」
- ※「若者よ」「社会よ」情報をもっと発信するべし！！
- ※どんな時でも、どんな事でも、どんな人でも高齢者は即戦力である事を忘れずに、困った時は高齢者に助けを求めましょう。高齢者のみなさん、アンテナを高くして情報を収集して下さることをおすすめします。
- ※年をとったら作るぞ！！
- 友達の輪！！ 輪！！

一年を振り返って

会員皆様の「協力」に感謝して



伊藤 弘 一 会長

この1年、東京五輪開催が決定、富士山が世界遺産に登録等の嬉しい話題、

その反面、異常気象による災害の発生と悲しい出来事がありました。

さて、県連協では今年度5件の事業を計画いたしました。会報42号（本誌）の発行をもちまして、今年度全ての事業が終了となります。

会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

1、第1回公開学習は、定員をオーバーする申し込みをいただき、主催者として感謝いたします。「いきいき活動事例発表」においては、社会参加活動の状況を披露し、また校友会活動の楽しさ・喜びを紹介して、来場者と共に楽しめました。

2、社交ダンスの集いは、日頃の練習成果が十二分に発揮され、踊る人・観る人を魅了させる「ダンスの祭典」の雰囲気を感じました。また

「わらびユニークダンス友の会」様には特別参加により華麗なダンスを披露していただきました。

3、グラウンド・ゴルフ交歓大会は、高齢者にふさわしい生涯スポーツとして、多数の参加を頂きお互いが楽しむ競技会となりました。

4、芸能祭は、今回は第2回目となりますが、「楽しく・交流・親睦」をテーマとして、会員の方々の熱いご協力により開催することができました。日頃の稽古や準備の成果が個性豊かに表現され、潤いと華やかさを感じさせる発表会となりました。

5、広報事業では、今年度から「県連協ニュース」と「会報42号」の年2回の発行体制に変わりました。各学園連協の社会貢献活動報告は、社会参加活動の促進に有意義ではないでしょうか。

会員の皆様が各事業に多数参加していたことが、「いきがい大学校友会」の更なる発展と充実に重要であります。来年度は新規に入会されます会員の皆様と共に「元気で明るく、楽しく」各事業を推進し、会員相互のいきがいを高めていきたいと思います。

社会貢献活動事例報告

高齢者や障害者福祉への支援活動29年目

浦和連協

浦和協も結成36年になり、残された活動記録にある「社会貢献活動」は昭和60年（1985年）の「福祉施設年末慰問・寄付」に始まり、現在の「赤い羽根街頭募金活動」に引き継がれ29年目となっています。いづれも目的は「高齢者や障害者福祉



への支援」であり、「赤い羽根街頭募金活動」も平成6年（1994）にスタートし20年になりました。

今年度も10月1日JR浦和駅頭で28名の連協の仲間が集い「赤い羽根街頭募金活動」を行い、「寄付する人も募る人もボランティア」をモットーに、心を通い合わせながら募金への協力をお願いしました。

ちなみに、今回の募金は街頭3万4525円でした。これに職域（各期からの自主的な募金）3万6500円を付加し、赤い羽根街頭募金活動を終了しました。

浦和協も新しい連協会員の加入が途絶えて5年になり、残念ながら新しいチャレンジは見られませんが、期単位では①クラブ・同好会・個人趣味を一同に会して「福祉施設への慰問活動」②クラブ・同好会活動が地元シルバーバンクへ登録し福祉活動を推進しています。

何らかの形で地域コミュニティに参加し社会貢献ができる喜びを求めて、活動が展開されています。

これこそ、埼玉県が提唱している共助・公助の実践であると考えます。

（広報部長 渡辺 登）

熊谷スポーツ文化公園の 花壇管理に取り組み

熊谷連協

熊谷連協では、熊谷スポーツ文化公園の花壇の維持管理に年間を通じて継続的に実施しています。熊谷

スポーツ文化公園は、1991年に開場した埼玉県で最も大きなスポーツ施設で、88畝の敷地にドーム型の屋内運動場（くまがやドーム）、陸上競技場、ラグビー場等を備え更に一周4550mのジョギングコースを持っています。2004年には「彩の国まごころ国体」のメイン会場としても使用されました。

熊谷連協では、ジョギングコース



沿いの花壇10区画に春秋の花苗を植え付け、除草、散水等を行っており平成25年度は、5月以降12月迄で12回（その他雨天中止2回）実施して延べ1600名以上の会員が参加しました。

特に今年は11月17日（日）に開

催された「育樹祭」には、皇太子殿下がお見えになりきれいに整備された花壇に感激なされたと公園事務所の責任者から伺いました。

熊谷連協では、これからもこの花壇を美しく維持管理してまいりますのでグラウンド・ゴルフ大会等で熊谷スポーツ文化公園

にいらっしやった際には、是非私たちの花壇を見ていただきたいと思います。

川越市交通安全運動に 参加して12年

川越連協

私たち川越学園26期校友会は、平成14年4月に川越市交通安全運動街頭キャンペーンに参加して今年で12年目を迎えました。

この交通安全運動は川越市と川越警察署主催によるもので季節ごとに年4回実施しますが、その他に7月は特別に「川越百万灯まつり」を盛り上げながら、交通安全のPRをしております。

私たちは、いきがい大学卒業時に社会貢献活動として何ができるかを模索していた時、この運動を知り参加いたしました。ボランティア活動を継続できるコツは「無理なく」「楽しく」「喜びを享受でき」「負担がない」ことが基本です。

この運動には毎回26期会員が10数名参加して他団体の皆さんと主催者側で用意した交通安全グッズ等を通行人や自転車通行の人に配布し交通安全の協力をお願いしております。最近の啓発活動の重点は「高齢者を

いたわる運転」「自転車のマナー向上」です。昨今の交通事故を見るにつけ、自転車マナーの向上は最重要課題であると思います。

平成23年6月にこの活動が認められ、26期校友会に川越警察署長より感謝状を頂きました。私たちはこれからも高齢者と同じ目線にたつて交通安全を訴えながら、交通事故のない明るい社会を目指してこの活動を継続していきたいと考えております。

（26期校友会会長 小森 通夫）



交通安全防止活動の感謝状

「エコライフDAY」 活動について

鷺宮連協



筏作りの風景

地元の環境活動グループに所属しボランティア活動をしている。活動の種別は多種多様で全く知識のない分野も含まれるが、自分の出来る範囲で協力している。このグループは10数名と少人数であり、イベント開催時には「いきがい大学同窓生」に因って参加をお願いすることも多い。例えば、行幸湖の「うき浮きフェスタ」では、9基の筏製作の内1基を「いきがい大学」として卒業期を問わず鷺宮学園、伊奈学園卒業生に分

担していただいている。主な活動は年間を通じ均等化が図られているが、どうしても秋の10、11月はイベントが立て込み繁忙期となる。イベントごとに責任担当者を決め、その方を中心に進めている。私は入会当初から「エコライフDAY」担当である。

この活動は平成17年度から県が主導し、県内小中学校生徒と父兄、県内企業・事業所従業員、各団体等に働きかけて実施しているもので、簡単なチェックシートを利用しエコライフを体験してもらう。一日省エネ・省資源など環境に配慮した生活をして、その結果削減できるCO2が計算される。この運動に関連して「埼玉県地球温暖化防止活動推進員」、「家庭の電気・ガスダイエット」、「環境家計簿」等があり、既に多くの方が参加されている。

人が文化的生活を向上させる程環境に負荷を掛けると相反する結果となりかねず、その度合いがますます難しい時代になったと実感する。次世代に迷惑は掛けられぬとの想いで身近な環境課題に取り組んでいる。

(32期校友会 中山 駿)

いきいきオカリナそして 和やかオカリナ

蔵連協



昨年5月より初めてのボランティア活動を開始しました。どのように進めれば良いのか、どう話をすれば良いのか分らない状態から出発致しました。最初ケアセンターで用意された歌詞集を見ながら皆さんが歌っており、顔は下を向いたまま！

これではいけないと感じ、次回は模造紙に大きく歌詞を書いて持参しました。利用者さんは顔をあげ、大きく口を開けて歌って頂けました。オカリナを吹いている時、偶然目と目が合い自然と笑顔になります。ある時、

「った」と言って頂いた時は顔がほころびました。

でも、お元気な方ばかりではありません、

酸素ボンベを付けている方、梗塞の後遺症の方、ヘルパーさんの補助で座っている方、そういう方々も若い頃良く歌った曲には大きな声で歌って下さいます。もう一度歌いたいか、次にこういう曲を聴きたいとか、次にこうい曲を聴きたいとか、リクエストも頂きます。引き上げる時に握手を求められ、手を握り返すと何とも云えず不思議に穏やかな気持ちになります。

園児達を前に活動した時は子供達のパワーに驚き最大限のエネルギーを貰いました。これからもオカリナボランティア活動として喜んで頂けるよう一同練習に励みたいと思います。

(22期校友会 稲垣 実枝子)



地域の子育て ボランティア

東松山連協

保健センターより未就園児の親子遊びを依頼されボランティア活動としてかれこれ9年が経ちました。

途中、地域の乳幼児の増加に伴いボランティアを募り地域の集会所で「子育てサロンひまわり」をスタートしました。

親子遊びの提供、子育て中のママの育児相談や心の癒しの場、地域の人々との交流の担い手として月2回開催しますが年間延べ1000人以上の方が利用しています。

いつも可愛い天使の笑顔のプレゼント



絵本読み聞かせ



親子遊び（本人中央）



子育てサロンひまわり（オールスター）

ントをいただいています。
運営費用は、行政からの援助と支援をいただいています。

いきがい大学に入学後「かたりベクラブやまびこ」のメンバーとして共に学びボランティア経験を積んだ事は子育てボランティアにも生かされ良きライフワークの一部になっていきます。
（大日方 敬子）

平成25年度 年間活動報告

伊奈連協

いきがい大学伊奈学園校友会は現在第5期から第22期までの2年制校友会と、専科1期、4期の1年制校友会をあわせて1100名の卒業生が在籍しています。それらの校友会を一つの団体としてまとめているのが伊奈学園校友会連絡協議会です。伊奈学園では各期別の校友会としてもそれぞれが社会貢献活動を行っています。伊奈学園校友会連絡協議会としてすべての校友会が一体となつて展開しているのは以下の6事業です。①ボランティア活動発表会②彩の国いきいきフェスティバル③合同研修会④ダンスの集い⑤グラウンド・ゴルフ交歓大会⑥芸能祭。

これらは県連協とも連携を取りながら行われていますが、これらの事業の中でも特に伊奈学園ボランティア情報センター（イナ・ヴォイス）が行っているボランティア活動は社会的にも注目を集めております。このたび、公益法人日本生命財団より平

成25年度「生き生きシニア活動顕彰」が贈られ、平成25年6月6日、埼玉県の上田知事から該当財団発行の感謝状と懸賞金5万円の目録贈呈を受けました。この伊奈学園ボランティア情報センターは伊奈学園校友会員



で構成される62のボランティア活動団体で構成され、各団体がさまざまな社会貢献活動を展開して現在に至っており、その「活動団体名簿」は各社会福祉施設に配布されて広く活用されております。

（校友会連絡協議会会長 秋山 敏治）

芽吹いたばかりの 「社会貢献活動」

入間連協

入間学園 2 期校友会では、平成 24 年度県連協芸能祭の参加を機に、その時結成したグループ「和気あいあい」として社会貢献活動を進めていくこととしました。

そして、平成 25 年 7 月には、校友会行事「お花見」で出会った「デイサービスいなりやま」の皆さんを訪問し活動をを行う機会を得ました。お花見の縁もあり、施設の皆さんと共に楽しく活動を行うことができました。



そして今回はこの施設から「是非来てほしい」とのありがたい要請があり、12月23日再度訪問実施することとなりました。当日は、クリスマスも間近なこと

からこの雰囲気盛り上げる演出にも工夫を凝らし、踊り、歌、手品等を会場の皆さんと一体となって演じました。そして最後にはささやかなクリスマスプレゼントを皆さんへ。

私共のこの活動に会場の皆さんの笑顔は絶えることなく、共に手をとり喜び合うことができました。帰りに、皆さんから「また来てくださいね。」と声をかけられるなど、私共にとっては感謝のよき一日となりました。まだ、芽吹いたばかりの私共の小さな社会貢献活動ではありますが、この活動をひとつずつ積み重ねて行こうと、次に向け準備を進めているところです。

今回は、平成 26 年 1 月に入間市内のデイサービス施設の訪問を行う予定です。

(2 期校友会)

ボランティア 活動の喜び

春日部連協

勿論、会員個々を含め様々な分野で活動していますが、今回は連協行事の中で参加する日は忙しくて昼食抜きで子供相手に実施した「割りばし鉄砲作り教室」を先生の私の目で紹介いたします。

越谷市の県立大学学生祭は 10 月末の土、日 2 日間、周辺の住民参加型の催しであり、いきいき埼玉財団の要請もあつて 10 年以上参加しています。当初は当連協文化祭と時期が近いため、創作展も兼ねていましたが、力仕事がつらい作品展は止めここ数年は「昔遊び」をテーマに 2 教室を借りています。

「遊ぶ」のも「作る」のも昨今の子供は得意ではないようなので「教室」の看板に「親子の」3 文字を追加しましたが、親もまた不得意の人たちが多くいるようです。

40 年前ナイフで鉛筆削りを教えた長男が小学校に入学した翌日「危険物持参」と女房が呼び出されたそ



の翌日、校長室へ激しい口調で非難した頃から兆しがあつたのです。

「昔遊び」ですから、童謡歌詞の「へだれが生徒か 先生か」のめだかの学校ではなく、「へムチを振り振り」のすずめの学校で行儀作法にも厳しく「いきいきフェスティバル」なども含めて年 300 人程教えていますがこの 1 年、たった 2 人しか泣かさなかつた先生も、ともあれ着実に成長しているのが、ボランティアの喜びといえましょう。

(5 期校友会 小牧 要二)

公益財団法人 いきいき埼玉

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろボランティア活動等を通じて地域社会の活性化のため、格別のご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、埼玉県は、平成 24 年から平



会報 42 号の発行に寄せて

理事長 飯 島 寛

れていないことではないでしょうか。埼玉県は、日本一の健康長寿県を目指し、自分にあったやり方で心と体の健康づくりをしていただけるよう、各種の事業を展開しています。

また、日本一の共助社会づくりにも積極的に取り組み、それぞれの地域にお住まいの方々が共に助け合う

そして、1 年もしくは 2 年の学園生活を終わられた後、学生生活で培った知識や経験などをさらに発展させ、各期の校友会、学園連協、そして県連協を組織していただき、さまざまなイベントやボランティア活動など、地域で活発にご活躍いただいています。

今後とも会員の皆様におかれましては、仲間とのネットワークを大切にされ、地域社会の様々な活動に積

成 26 年にかけて、いわゆる団塊の世代の方々が 65 歳以上に達し、平成 27 年には 4 人に 1 人が高齢者になる超高齢社会が到来します。超高齢

社会という、医療や介護の負担増加や、労働力の減少といったマイナスのイメージで捉えがちですが、高齢者のうちの 9 割近くは「元気な高齢者」という、意欲も体力も充実した方々だということは、あまり知ら

「共助」や「互助」を実現する社会を目指しています。そのような埼玉の姿を実現するため、高齢者の方々には、その担い手として従来にも増して地域の活力維持という大きな役割が期待されております。

「彩の国いきがい大学」は、高齢者のみなさまが健やかでいきがいにあふれた生活を続けていただくため、学習と仲間づくりの場として、例年多くの方にご入学いただいております。

極的に取組まれるとともに、全国の高齢者のモデルとなるようご活躍いただきますことを大いに期待しております。

結びに、貴協議会の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



◇平成 25 年度 いきいき埼玉の主催事業実績◇

- ① 彩の国プラチナフェスティバル（高齢者創作展）
平成 25 年 9 月 6 日（金）から 9 日（月）
埼玉会館
部門 日本画 洋画 工芸 書 写真 文芸 応募出品 715 点 来場者 2,348 人
- ② 彩の国いきいきフェスティバル
平成 25 年 11 月 4 日（月・祝）
県民活動総合センター
県連協から 6 連協（熊谷 鷲宮 蕨 東松山 伊奈 春日部）が出演 来場者 約 20,000 人
- ③ いきがい大学第 2 回公開学習
平成 25 年 12 月 11 日（水）
大宮ソニックシティ
第 1 部演奏 早稲田大学 ハイ・ソサエティ・オーケストラ
第 2 部講演 鎌田實氏「かんばらない」けど「あきらめない」～命を支えるということ～
入場者 2,206 人（在学生 1,391 人 一般 815 人）

県連協事業報告

いきがい大学第一回公開学習事例発表

2 題 25・7・16

はるばる来ました

東松山連協

先日、公開学習の場で、我々「かたりべくらぶ」やまびこ」に対し、いきがい大学卒業生の活動事例発表としての機会を、入間学園と共に与えていただいた。大宮ソニックスの舞台で、しかも2000人余の前に立つのは勿論初めてで、緊張感と高揚感を覚えたが、むしろ心地よいとさえいえる心境であった。



発表内容は、パワーポイント画面を用いての、クラブの設立目的および生い立ちと、現在の活動状況を紹介し、同時に各種施設訪問時に行う演目の一部を、主に女性陣主体で紹介実演した。また、年配者向けに作成した大型紙芝居やパネルシアターも現物展示した。メンバーは日頃のボランティア活動で慣れているのか、全員全くの平常心であるように見受けられた。さすが年の功と喜ぶべき事なのかどうか。

思えば、チームでのボランティア活動を実現する為にはまず仲間を集め、その手段としての朗読テクニク習得と続き、現在の施設へのボランティア訪問が継続出来ている。専科入学当時の決心から思うと、「思えばはるばる来たものだ」と感じるが、これらは全て、「良き仲間との出会いと協力の結果」とひたすら感謝の毎日です。(萩原 記)

和気あふい

入間連協

私達「入間学園2期校友会」は、在学時代のスローガンである「共に学び、共に輝け」を今もそのまま校友会活動をすすめてきました。今回この活動状況を公開学習の場において、県下のいきがい大学の皆さんに発表する機会を与えていただきました。



今回の発表は入間連協文化祭において個々に発表した2期のグループが一緒にあって「和気あふい」を結成し行ったものです。具体的には、まず、映像とフォークギターの弾き語りによる校友会活動の発表、そして次は女性グループによる踊り、最後は出演者全員によるこの日のために作った「わが級友よ」の大合唱という形で会員の総力を結集し、発表を行わせていただきました。そして私共の校友会活動への意気込みを会場の皆さんへお伝え出来ればと取組んでみました。当日は大舞台で緊張しながらの発表でありましたが、会場の皆さんと一体となって楽しく賑やかにすることができ、出演者一同感謝と感激でいっぱいでした。そしてまさに皆が「共に輝いた」素晴らしい一日となりました。私共はこれを機に校友会活動を更に推進し、地域貢献活動等も積極的に行っていきたいと思っております。そして学園卒業時、皆で封印したタイムカプセルを5年目の来年は開封し、更なる発展を目指します。(2期校友会)

社交ダンスの集い

盛況華麗に社交ダンスの集い終演

幹事校代表・実行委員長

岩上 馨一



平成25年度県連協主催の社交ダンスの集いが10月4日上尾運動公園体育館で行われました。参加者はエントリー444名ですが当日では役員ほか見学者を合わせると450名ほどの集いとなりました。午前9時ハーサルに続き、12時半から開会式となり実行委員長の力強い開会宣言を嚆矢(こうし)にダンスの開幕となりました。各学園等のフォーメーション演技は、一年間かけて十分練習を積み重ね、いずれも工夫が凝らされて見応えのある素晴らしい演技が

展開されました。特に「蕨ユニークダンス」の車椅子による華麗な円舞や熊谷学園の100名を越す壮大な踊りに対して盛大な拍手が送られました。隣席の某学園ダンス指導者から、技量は年々向上しているという声が聞こえました。今回の集いでは、音曲を全てCDに統一し、行進曲は各学園所定に、またミキシングは一カ所にして回転効率を高めるように改めたところ、音響操作能率の向上、練習結果の首尾一貫性と進行面での運用効率の向上等が検証されました。今後ダンスの集いが、さらに学園間の親睦を深め、個々人の健康維持増進の目標として、益々発展しダンスの祭典まで高揚される日を期待し、併せて皆様のご協力に厚く感謝を申し上げます。



開会式



ダンス風景



車いすダンス風景

平成 25 年度県連協主催 第 15 回グラウンド・ゴルフ交歓大会

冬晴れの素晴らしい日となった12月2日(月)県連協主催第15回グラウンド・ゴルフ大会が熊谷スポーツ文化公園施設・彩の国くまがやドームに於いて開催されました。今年は蕨連協と伊奈連協が担当幹事校となり準備を進めてまいりましたがが昨年度に引き続き屋内施設を利用して開催される事になり天気を心配しなくてよいので幹事校としましては大変助かりました。当日は9学園から選ばれた参加者、精鋭206名(参加登録209名)が一同に会し、素晴らしい交歓大会となりました。

開会式は伊藤県連協会長の挨拶、布藤いきいき埼玉理事、富岡熊谷市長の祝辞を頂き、前年度の優勝者・準優勝者の賜杯返還と続きました。

試合は10時スタート、Aコート2面(16ホール)Bコート2面(16ホール)を使い実施、各コートが終了した時点で昼食。45分の昼休みを取った後A・Bコートを交換し、残り16ホールでプレーに入った。普段のプレーは天然芝、土の上で



ですが、屋内の「人工芝グラウンド」の為、普段とは条件が異なり、参加の皆さんの戸惑いとは関係なく、好成績が続出しました。その中でも、熊谷学園の選手は地元開催で意気高揚したのか上位成績者10位の中に、優勝者の他4名の方が入賞されました。

終了予定時間14時をオーバーしましたが、参加された皆さんは出場を喜び再会を約して無事14時50分解散となりました。(大会運営委員長 伊奈連協 土井 信明)

県連協主催第2回芸能祭が開催されました

第2回芸能祭



フィナーレのズンドコ節を楽しむ

平成 25 年度最後の県連協行事である第 2 回芸能祭が 3 月 7 日(金)に埼玉県熊谷会館大ホールにおいて開催されました。今回は川越連協と熊谷連協が担当幹事校となり準備を進めてきました。当日の熊谷市は真冬に戻ったような赤城嵐にみまわれましたが、会場内は各連協から選ばれた 25 組の出演者の熱気あふれる演技に、楽しい 1 日を過ごしました。

芸能祭は熊谷会館をうめた 900 名を越える出演者・見学者による「四季の歌」の大合唱で始まりました。

開会式は芸能祭実行委員長中島武久熊谷連協会長の開会宣言で始まり、伊藤弘一県連協会長から「舞台と客席が一体となって楽しんでください」との開会挨拶の後、ご来賓の富岡熊谷市長からご祝辞と歓迎のご挨拶をいただきました。

入間連協の大正琴演奏による「雪椿」を皮切りに各連協自慢の演技が始まりました。

今回はコーラス・楽器演奏・大道芸・演舞・ダンス等多様な演目が発表されました。

特にダンスは、社交ダンス・フラダンス・ラウンドダンス・手話ダンス・フィンガーファイブダンス等各連協の工夫がうかがえ出場者も会場も一体となって楽しむことが出来ました。

また、蔵連協の 68 名による「ウクレレ演奏・フラダンス」、地元熊谷連協の 72 名の「社交ダンス」、77 名による「演舞」等大勢の出演者が熊谷会館の広い舞台を一杯に使っての演技には会場を埋め尽くした会員も圧

倒されていました。

勇壮な和太鼓、優雅なダンス、50 歳は若返ったと思われる元気なダンス等の楽しい演技が続きました。フィナーレの熊谷連協による地元の民謡「直実節」に続いての「きよしのズンドコ節」では、多くの参加者が舞台上がり会場は文字通り一体となって踊りを満喫して、来年の再会を楽しみに芸能祭を終了しました。

熊谷連協では、芸能祭の全演目の写真をホームページに掲載しています。是非ご覧ください。HP アドレスは <http://yuurenkyo.net/>

(熊谷連協広報部長 八巻 剛正)

健康の知恵

◇風邪予防に番茶うがい

用意するもの番茶、塩。

(1) 湯呑に、普段より少し濃いめの番茶を注ぎ、そこに塩を一つまみ入れる。

(2) ガラガラとのを鳴らしながら 3〜4 回うがいします。毎日繰り返すことで、のどが殺菌されて免疫力が付く。

◇トゲは 5 円玉で楽に抜く

用意するもの 5 円玉、ピンセット。

(1) 5 円玉は熱湯消毒する
(2) 5 円玉の穴からトゲが出るようにして、しっかりと押さえる。肉が盛り上がりトゲが抜きやすくなったならピンセットで抜く。

学園ひろば 俳壇

孔雀尾を 引きずり歩く 残暑から
輝ける 名月に身を 貫かれ

鷺宮連協 梅田 博

恋猫の 鈴の音軽く 戻りけり

みちのくの かつば伝説 春の水

春日部連協 松島 洋一

編集後記 平成 25 年度の県

連協「会報 42 号」を幹事校として春日部連協が担当しました。「社会貢献活動」を共通テーマとして取り上げました。会員の皆様が地道な奉仕活動を通して地域社会の道標となられておりますことに感動を覚えました。発行に際しいきいき埼玉理事長飯島寛様をはじめ県連協伊藤会長、各連協の皆様にも多大なるご協力を頂きましたことに対し厚く御礼申し上げます。

春日部連協

広報部

作成幹事校

いきがい大学春日部学園連絡協議会